**【書式２】地域変革のためのヒアリングシート**

氏名：

（利用者からみた地域の状況）

【１】利用者が参加・所属している地域組織または参加したがっている組織について

|  |  |
| --- | --- |
| 組織の名前は？ |  |
| どの程度の「参加」か？ |  |
| 参加しやすい条件整備がなされているか？ |  |
| どういう条件が整えば、もっと参加しやすくなるか？ |  |

　＜注＞自治会・趣味グループ・学校・ファンクラブ・生涯学習グループ・各種〈連続〉講座・ボランティアグループ

【２】利用者の交友相手〈友達〉について

|  |  |
| --- | --- |
| どのような関係の人か |  |
| 利用者の資源になりうるか |  |
| どうしたら資源になるか |  |

　　＜注＞井戸端会議の相手・同窓生・趣味友達・講座友達・級友

【３】利用者が所属している当事者組織について

|  |  |
| --- | --- |
| どのような組織に属しているか |  |
| 利用者同士の問題解決のために十分機能しているか |  |
| もっと機能するためには、どういう支援が必要か |  |
| 利用者はどのような役割を果したらいいか |  |
| その組織は利用者にとってどのような意味があるか |  |

【４】利用者に（福祉的に）関わっている人や組織・企業〈商店〉・隣人について

|  |  |
| --- | --- |
| どのようなかかわりをしてくれているか |  |
| もっと進んだかかわりをしてもらうには、どのような条件が整備されたらいいのか |  |
| こちらとしてどのような努力をしたらいいか〈どのような仕掛けを施したらいいか〉 |  |

　＜注＞行きつけの商店の主が、店頭で親切にしてくれる程度でもいい。

【５】利用者が見込んでいる相手〈相談に乗ってくれたり、困ったとき助けてくれる人〉・行きつけの商店・診療所の医師・隣人について

|  |  |
| --- | --- |
| その利用者が見込む相手はどういう条件があるのか |  |
| 利用者が見込んでいる人が、見込まれたことをきちんとしているか |  |
| していないとすれば、それはなぜか |  |
| 見込まれたことをその人が実行するには、どういう働きかけが必要なのか。 |  |

　＜注＞なぜその人を見込んでいるのか。

【６】利用者の親族で、利用者が頼みにしている相手について

|  |  |
| --- | --- |
| その相手は、利用者の期待に添うように行動しているか |  |
| していないとすれば、それはなぜか |  |
| どうしたら期待に添うように行動するようになるか |  |
| 他の親族はなぜ頼りにならないのか |  |
| どうしたらもっと頼りになる親族になるのか |  |

【７】利用者の〈これから戻る〉近隣は、利用者にとってよい近隣か

|  |  |
| --- | --- |
| どのように頼りになるか |  |
| どのように頼りにならないか |  |
| どんな人材が存在しているか〈世話焼き・口利きなど〉 |  |
| もっと頼りになる近隣にするにはどうしたらいいか |  |

【８】利用者の周囲で、活用できそうな福祉資源はあるか

|  |  |
| --- | --- |
| どのような資源が分布しているか〈いわゆるボランティアや民生委員、福祉推進員だけでなく、世話焼きさんや、保健福祉のプロ、各種公共機関なども〉 |  |
| それぞれどのような資源性を持っているか |  |
| それぞれ利用者にどのような資源になりうると思うか |  |
| それらの資源を利用者に振り向けるにはどのような仕掛けが必要か |  |
| それぞれがより強力な資源になるには、どのような仕掛けが必要か |  |

【９】利用者にとって「隠れた資源」となっているもの〈利用者を元気にさせているもの〉について

|  |  |
| --- | --- |
| あるとすればそれは何か |  |

＜注＞特に動植物や自然環境、日常生活の各種グッズ、遊び・スポーツなど、人間以外の資源に着目。

【10】利用者は地域に対して、どのような資源性を有しているか。

|  |  |
| --- | --- |
| 資源性とそれが機能している対象を羅列 |  |
| 利用者が頼りにしている相手に対して、どのような資源性を発揮しているか |  |
| 利用者が潜在的に有している資源性は何か |  |
| それぞれ誰に対して資源となりうるか |  |
| 利用者の資源力を増強させるには、どのような支援が必要か |  |

　＜注＞隣人の相談相手、同じハンディを持った人の相談相手、趣味グループなどで、ユニークな働きをしている、など。

【11】利用者にとっての資源同士のネットワークの状況はどうか

|  |  |
| --- | --- |
| これまであげられた資源相互の連絡はどの程度なされているようであるか。お互い〈資源同士〉、その利用者にかかわっていることをどの程度承知しているようであるか |  |
| もっときちんとネットワークができるためには、どのような支援が必要か |  |

【12】利用者の自宅〈居住場所〉は、どのような資源となるか

|  |  |
| --- | --- |
| 資源を発掘・活用するのにどのように適しているか、または適していないか |  |
| より多くの資源を発掘・活用するために、どのような環境整備が必要か〈利用者のセルフケアマネジメント能力の開発。自宅の改造。支援者の確保。資金援助など〉 |  |

【13】利用者のセルフケアマネジメント能力〈自分の状態を正確に把握・ハンディの中身も客観的に把握・その克服策の工夫・必要な資源を発掘・活用する資質等〉の評価をしてみよう。

|  |  |
| --- | --- |
| セルフケアマネジメント能力の評価 |  |

＜注＞人に好かれる〈人が寄って来る〉・自分も人が好き・人の好き嫌いがない・困ったら困ったと言える・だれにも気軽に助けを求めることができる・助け手を上手に探し出す・お礼の言い方・仕方も上手・人間関係に長けている。自分もお返しができる・自分の〈他人に〉できることを上手に生かす・自分の意思をきちんと伝えられる・コミュニケーション手段を持っているし使える・どこへでも気軽に出かける・人を呼び込む場〈空間〉を確保している・セルフケアマネジメントのための支援者〈秘書？〉を確保している、など

出典：日本社会福祉士会研修資料を一部改変